講義名 神戸の景観と歴史 授業形態	その他
	< ブリント専門シ を命間 ブリント 海社 おむま
開講期・曜日・時限 前期 月曜日 1 時限	< ブリント 資料と うない ように 保存すること。 グラント 資料を配布する。 ブリント 資料を配布する。 ブリント 資料 は無くなさいように 保存すること。 グランガン・
担当教員 藤原 喜美子	<参考文献> 講義中に適宜紹介する。
単位数     2     履修開始年次     2 年生     ナンバリング・コード       LBA114	
主題と概要	
	授業計画
この講義では、本学が位置する神戸を対象に、「街の景観と歴史」を主題として紹介する。江戸時代の幕末の開港をはるかにさかのぼる大輪田治や兵庫津、開港後の国際的な港湾都市としての役割、近代 都市へ移行する神戸の歩みを取り上げたい。そして、私たちが日常的に接している神戸の風景の中に、堆積された歴史を考える視座を提供していきたい。	講義の進め方の詳細は、第1回の講義で説明する。
	第1回 「神戸と景観」神戸の景観をどのように捉えるか
	第1回 所で、原数1 所での複数をといる。15.50.20 合自が興味のある事柄を 1つ調べておく(120分)。 復国内容:授業計画に応じてある編奏デーマを確認し、 毎自が興味のある事柄を 1つ調べておく(120分)。 復国内容:配前機料を読み、講義内容の安点を確認し、 神戸の身近な事例を各自で考えてみる(120分)。 第 2 回 「 瀬上部産業」
	第2回 「潜と酒意業」 予習内容:授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ調べておく(120分)。 援当内官:配荷貞料を読み、講義内容の要点を確認し、神戸の身近な事例を各自で考えてみる(120分)。
	<b>■ 第3回 「六申山の利申」</b>
	「不管内容・排棄計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ調べておく(120分)。 復習内容・記念資料を認め、講義内容の要点を確認し、神戸の身近な事例を各自で考えてみる(120分)。 第4回 「神門地と起闢社」
	38 年 1 回 帝 「伊川地区」の周甲記 予留内容 : 伊東武師に応じてある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を 1 つ調べておく(120分)。 復宮内容 : 私が資料を読み、講義内容の要点を確認し、神戸の身近な事例を各自で考えてみる(120分)。 第5回 「北野と町並み」
	福田内性、民間科性を認め、開放的性が支流で確認し、サデレジスル中的で日日(5人とかな)(120万)。   第二日
別達目標	一不言の容:排業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を 1つ調べておく(120分)。 復習内容:記者資料を認め、講義内容の要点を確認し、神戸の身近な事例を各自で考えてみる(120分)。 第6回 「神戸・浄水場」
学生が、講義の内容を理解したとで、自らが考える「神戸像」(神戸の魅力)について、自分の音楽で他の人に話すことができるようになる。	一不智内容: 授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を 1つ調べておく(120分)。 復習内容: 記念資料を読め、講義内容の要点を確認し、神戸の身近な事例を各自で考えてみる(120分)。 第7回 「元鷹才達河」
	第7回 「兵庫港と運河」 予留内容・接雲計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ調べておく(120分)。
	一 子宮内容: 授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を 1つ調べておく(120分)。 復習内容: 記念資料を読み、講演内の要点を確認し、神戸の身近な事例を各自で考えてみる(120分)。 第8回 「子原津上近世の趣識業」
	一不智内容: 授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を 1つ調べておく(120分)。 復習内容: 昆売資料を読め、講義内容の要点を確認し、待戸の身近な事例を各自で考えてみる(120分)。 第9回 「大庫津 西田前日』
	第9回 「兵庫津仁西国街道」 -
	※ 音図内容・振舞計画に記してある講教テーマを確認し、各自が興味のある事柄を 1つ調べておく(120分)。 復習内容・記覚解料を読め、講義内容の要点を確認し、神戸の身近な事例を各自で考えてみる(120分)。 第10回 「長鹿・伊浦屋」
	一 子宮内容: 授業計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を 1つ調べておく(120分)。 復習内容: 記憶理科を読め、講義内容の要点を確認し、神戸の身近な事例を各自で考えてみる(120分)。 第11回 「長田の町並み」
	第11回 「長田の町並み」 「金田の町並み」 「金田の町並み」
	・ 不管内容・提集計画に記してある職務テーマを確認し、各自が順味のある事柄を 1つ調べておく(120分)。 復国内容・紀元修料を認め、講教内容の要点を確認し、神戸の身近な事例を合自で考えてかる(120分)。 第12回 多井畑と信仰 7 まる事務ニーマを辞別 8 会員 4 開発となる 1 別名ですと(120分)
是出課題	知に回り窓 9月7年に日前7 予習内容 2集計画に記してある講義テーマを確認し、各自が興味のある事柄を1つ調べておく(120分)。 復習内容:起市資料を読み、講義内容の要点を確認し、神戸の身近な事例を各目で考えてみる(120分)。 第13回 「単本と海
講義では毎回、感想文などを記入し、小レポートとして提出してもらう。感想文のテーマは、講義ごとに伝える。 小レポートとは別に、講義に関連した指定のテーマについて、学期末レポートの提出を求める。レポート課題の詳細は、別途、5月後半に、講義中の説明ならびにRYUKA portal「キャンパスクロス」の掲	**
・バルルードとは内に、病験に関連した指定のアーマにしいて、子樹木レルードの使用を水のる。レルード病型の評論は、が迷、5月後干に、病験やの試明は5分にRTUMA POTEIT・キャンハスクロス」の持 示を通じて指示する。	第14回 「有馬温泉と信仰」 - 平型内点・神影子画に対してある建築テーマを練習」。各自作機能力を実施する「理べておく(100分)
	第一時間内容 - 19年後計画にはしてある講義テーマを確認し、各自が関味のある事柄を1つ調べておく(120分)。 接当内容 - 18年後計画にはしてある講義アラマを確認し、各自が関味のある事柄を1つ調べておく(120分)。 第15回 「まとか」あなたが異なる4時年後(神戸の魅力) 予留内容 - 1度最終に関いてある編集テーマを確認し、各自が関味のある事柄を1つ調べておく(120分)。 復国内容 - 18世前日本紀の大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大
	・
<b>課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法</b>	
	授業形態 (アクティブ・ラーニング)
毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。	受業形態(アクティブ・ラーニング)  ア:PBL(課題解決型学習)  イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
	ア: PL (課題解決型学習)         イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)           ウ: ディスカッション、ディベート         エ: グループワーク
	ア: PL (課題解決型学習)         イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)           ウ: ディスカッション、ディベート         エ: グループワーク           オ: ブレゼンテーション         カ: 実習、フィールドワーク
	ア: PL (課題解決型学習)         イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)           ウ: ディスカッション、ディベート         エ: グループワーク
	ア: PL (課題解決型学習)         イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)           ウ: ディスカッション、ディベート         エ: グループワーク           オ: ブレゼンテーション         カ: 実習、フィールドワーク
	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンデーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)    卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンデーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)    卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。 『一個の基準	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンデーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)    卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンデーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)    卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。 『一個の基準	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グルーブワーク         オ: ブレゼンテーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 ( A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合 )
毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。 『一個の基準	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンデーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)    卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。 『一個の基準	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンデーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)    卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。 『一個の基準	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンデーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)    卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。 『一個の基準	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンデーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)    卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。 『一個の基準	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンデーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)    卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。 『一個の基準	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンデーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)    卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。 『一個の基準	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンデーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)    卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
毎回の講義で書いてもらう意想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。  学価の基準  評価の基準  評価は、平常点(台回の意想文などを記した15回分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。 評価の基準は、第1回の講義の時にシラバスの用版を配付し、詳細を伝える。  服修にあたっての注意・助言他	ア: PQL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンデーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)    卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
毎回の講義で書いてもらう意想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。  学価の基準  評価の基準  評価は、平常点(台回の意想文などを記した15回分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。 評価の基準は、第1回の講義の時にシラバスの用版を配付し、詳細を伝える。  服修にあたっての注意・助言他	ア: PLL (課題解決型学習)       イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グループワーク         オ: ブレゼンテーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)         卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この授業は、全学共通科目の教験科目として、上記の主題と概要、別連目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。(2) 知識を知識に振わすることができる。論理が思考するたりが、 「提案、整理することができる(情報収集力)・・ で質した場合の背景を表面に分析に表現と対して、大きないに関係の所的に分析に表現とは、解決すべき提供を認定することができる(課題を見力)・・ 現象や事業のなかに隠れている問題者やその意因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題見見力)・ さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた遺館や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)
毎回の講義で書いてもらう意想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。  学価の基準  評価は、平常点(各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。 評価の基準は、平 1 回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。  『整にあたっての注意・助言他  1、節布の足をも過して、日常的に採している神戸を見直し、受講者各自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナーにの見るというを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも固定となるを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも関連文脈にも構造的に目を通してほしい。また、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・オーナー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー	ア:和L(課題解決型学習)       イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ:ディスカッション、ディペート       エ:グループワーク         オ:ブレゼンテーション       カ:楽習、フィールドワーク         辛:その他(AL型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)         卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この授業は、全共連利目の教験科目として、上記の主題と概要、別連目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。(2) 知識を知識に転換することができる。(2) 知識を知識に転換することができる。(2) 知識を知識に転換することができる。(2) 知識を知識に転換することができる(情報収集力)・・課題を表し、愛女情報を見ため、選出な手段を用いて収集・選索・機能があるのないに指わている問題とやうの製造を発し、教学文でも登録を設定することができる(情報収集力)・・・現象や職業の女がに指わている問題とやうの製造を発し、教学文でも登録を設定することができる(課題発見力)・・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道路や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)         双方向授業の実施及びにこの活用に関する記述
毎回の講義で書いてもらう意想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。  学価の基準  評価は、平常点(各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。 評価の基準は、平 1 回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。  『整にあたっての注意・助言他  1、節布の足をも過して、日常的に採している神戸を見直し、受講者各自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナーにの見るというを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも固定となるを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも関連文脈にも構造的に目を通してほしい。また、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・オーナー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー	ア:和L(課題解決型学習)       イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ:ディスカッション、ディペート       エ:グループワーク         オ:ブレゼンテーション       カ:楽習、フィールドワーク         辛:その他(AL型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)         卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この授業は、全共連利目の教験科目として、上記の主題と概要、別連目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。(2) 知識を知識に転換することができる。(2) 知識を知識に転換することができる。(2) 知識を知識に転換することができる。(2) 知識を知識に転換することができる(情報収集力)・・課題を表し、愛女情報を見ため、選出な手段を用いて収集・選索・機能があるのないに指わている問題とやうの製造を発し、教学文でも登録を設定することができる(情報収集力)・・・現象や職業の女がに指わている問題とやうの製造を発し、教学文でも登録を設定することができる(課題発見力)・・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道路や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)         双方向授業の実施及びにこの活用に関する記述
毎回の講義で書いてもらう意想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。  学価の基準  評価の基準  評価は、平常点(台回の意想文などを記した15回分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。 評価の基準は、第1回の講義の時にシラバスの用版を配付し、詳細を伝える。  服修にあたっての注意・助言他	ア:和L(課題解決型学習)       イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ:ディスカッション、ディペート       エ:グループワーク         オ:ブレゼンテーション       カ:楽習、フィールドワーク         辛:その他(AL型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)         卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この授業は、全共連利目の教験科目として、上記の主題と概要、別連目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。(2) 知識を知識に転換することができる。(2) 知識を知識に転換することができる。(2) 知識を知識に転換することができる。(2) 知識を知識に転換することができる(情報収集力)・・課題を表し、愛女情報を見ため、選出な手段を用いて収集・選索・機能があるのないに指わている問題とやうの製造を発し、教学文でも登録を設定することができる(情報収集力)・・・現象や職業の女がに指わている問題とやうの製造を発し、教学文でも登録を設定することができる(課題発見力)・・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道路や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)         双方向授業の実施及びにこの活用に関する記述
毎回の講義で書いてもらう意想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。  学価の基準  評価は、平常点(各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。 評価の基準は、平 1 回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。  『整にあたっての注意・助言他  1、節布の足をも過して、日常的に採している神戸を見直し、受講者各自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナーにの見るというを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも固定となるを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも関連文脈にも構造的に目を通してほしい。また、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・オーナー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー	ア:和L(課題解決型学習)       イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ:ディスカッション、ディペート       エ:グループワーク         オ:ブレゼンテーション       カ:楽習、フィールドワーク         辛:その他(AL型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)         卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この授業は、全共連利目の教験科目として、上記の主題と概要、別連目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。(2) 知識を知識に転換することができる。(2) 知識を知識に転換することができる。(2) 知識を知識に転換することができる。(2) 知識を知識に転換することができる(情報収集力)・・課題を表し、愛女情報を見ため、選出な手段を用いて収集・選索・機能があるのないに指わている問題とやうの製造を発し、教学文でも登録を設定することができる(情報収集力)・・・現象や職業の女がに指わている問題とやうの製造を発し、教学文でも登録を設定することができる(課題発見力)・・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道路や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)         双方向授業の実施及びにこの活用に関する記述
毎回の講義で書いてもらう意想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。  学価の基準  評価は、平常点(各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。 評価の基準は、平 1 回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。  『整にあたっての注意・助言他  1、節布の足をも過して、日常的に採している神戸を見直し、受講者各自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナーにの見るというを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも固定となるを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも関連文脈にも構造的に目を通してほしい。また、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・オーナー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー	ア: PRL (課題解決型学習)       イ: 反転提集 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベト       エ: グループワーク         オ: ブレゼンテーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)         卒業認定・学位接与の方針と当該授業科目の関連         この課業は、金字共通科目の教験科目として、上記の主題と概要、影道目標の修得を通じて、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。(2) 知識を経過に伝わずることができる。(2) 知識を経過に伝わずることができる。(2) 知識を経過に伝わずることができる。(2) 知識を経過に伝わずることができる。(2) 別述を経過に伝わずることができる。(2) 別述を経過に表しました。(2) 別述を経過に表しました。(2) 別述を経過に表しました。(2) 別述を経過に表しました。(2) 別述を経過に表しました。(2) 別述を表しました。(2) 別述を関係を表しました。(2) 別述を表しました。(2) 別述を表しましました。(2) 別述を表しました。(2) 別
毎回の講義で書いてもらう意想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。  学価の基準  評価は、平常点(各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。 評価の基準は、平 1 回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。  『整にあたっての注意・助言他  1、節布の足をも過して、日常的に採している神戸を見直し、受講者各自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナーにの見るというを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも固定となるを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも関連文脈にも構造的に目を通してほしい。また、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・オーナー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー	ア: PRL (課題解決型学習)       イ: 反転提集 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グルレフワーク         オ: ブレゼンテーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)         卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この課題は、全学共通科目の教験科目として、上記の主題と概要、別連目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。(2) 知識を知識に振動することができる。(3 世紀 大きないできる)、「他の主題と概要、別・記録を表現した。(3 世紀 大きないできる)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主意な)
毎回の講義で書いてもらう意想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。  学価の基準  評価は、平常点(各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。 評価の基準は、平 1 回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。  『整にあたっての注意・助言他  1、節布の足をも過して、日常的に採している神戸を見直し、受講者各自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナーにの見るというを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも固定となるを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも関連文脈にも構造的に目を通してほしい。また、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・オーナー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー	ア: PRL (課題解決型学習)       イ: 反転提集 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベト       エ: グループワーク         オ: ブレゼンテーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)         卒業認定・学位接与の方針と当該授業科目の関連         この課業は、金字共通科目の教験科目として、上記の主題と概要、影道目標の修得を通じて、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。(2) 知識を経過に伝わずることができる。(2) 知識を経過に伝わずることができる。(2) 知識を経過に伝わずることができる。(2) 知識を経過に伝わずることができる。(2) 別述を経過に伝わずることができる。(2) 別述を経過に表しました。(2) 別述を経過に表しました。(2) 別述を経過に表しました。(2) 別述を経過に表しました。(2) 別述を経過に表しました。(2) 別述を表しました。(2) 別述を関係を表しました。(2) 別述を表しました。(2) 別述を表しましました。(2) 別述を表しました。(2) 別
毎回の講義で書いてもらう意想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。  学価の基準  評価は、平常点(各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。 評価の基準は、平 1 回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。  『整にあたっての注意・助言他  1、節布の足をも過して、日常的に採している神戸を見直し、受講者各自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナーにの見るというを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも固定となるを通して、日常的に採している神戸を見直し、受講者名自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・ナー・カーの足をも関連文脈にも構造的に目を通してほしい。また、講義を聴くだけではなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の男士・オーナー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー	ア: PRL (課題解決型学習)       イ: 反転提集 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グルレフワーク         オ: ブレゼンテーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)         卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この課題は、全学共通科目の教験科目として、上記の主題と概要、別連目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。(2) 知識を知識に振動することができる。(3 世紀 大きないできる)、「他の主題と概要、別・記録を表現した。(3 世紀 大きないできる)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主意な)
等価の基準  評価の基準  評価の基準  評価の基準  評価の基準  評価の基準  評価の基準は、 平常点(各回の感覚文立どを記した15回分の小レポート、約点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。  評価の基準は、 平常点(各回の感覚文立どを記した15回分の小レポート、約点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。  評価の基準は、 第1回の調義の時にシラバスの用版を配付し、詳細を伝える。  1. 1 ● 1. 1	ア: PRL (課題解決型学習)       イ: 反転提集 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グルレフワーク         オ: ブレゼンテーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)         卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この課題は、全学共通科目の教験科目として、上記の主題と概要、別連目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。(2) 知識を知識に振動することができる。(3 世紀 大きないできる)、「他の主題と概要、別・記録を表現した。(3 世紀 大きないできる)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主意な)
毎回の講義で書いてもらう感想交の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。  「学師の基準  「評価の基準  「評価の基準  「評価の基準は、現下無点(各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。  「評価の基準は、第1回の講義の時にクラバスの用版を配付し、評価を伝える。  「学師本を伝える。  「学問末レポート(40点)を総合して行う。  「学問本として行う。  「学問本として行う。  「学問本として行う。  「学問本として行う。  「学問本として行う。  「学問本として行う。  「学問本という。  「学問本を配付し、評価を配付し、評価を配付し、  「学問本という。  「学問本を知らしている。  「学の本という。  「学の本というないが、 「ないらいうないが、 「ないらいるないが、 「ないらいるないが、 「ないらいうないが、 「ないらいうないが、 「ないらいうないが、 「ないらいうないが、 「ないらいうないが、 「ないらいうないが、 「ないらいないが、 「ないらいないが、 「ないらいないが、 「ないらいないが、 「ないらいないが、 「ないらいないが、 「ないらいないないが、 「ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	ア: PRL (課題解決型学習)       イ: 反転提集 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グルレフワーク         オ: ブレゼンテーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)         卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この課題は、全学共通科目の教験科目として、上記の主題と概要、別連目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。(2) 知識を知識に振動することができる。(3 世紀 大きないできる)、「他の主題と概要、別・記録を表現した。(3 世紀 大きないできる)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主意な)
等価の基準  評価の基準  評価の基準  評価の基準  評価の基準  評価の基準  評価の基準は、 平常点(各回の感覚文立どを記した15回分の小レポート、約点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。  評価の基準は、 平常点(各回の感覚文立どを記した15回分の小レポート、約点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。  評価の基準は、 第1回の調義の時にシラバスの用版を配付し、詳細を伝える。  1. 1 ● 1. 1	ア: PRL (課題解決型学習)       イ: 反転提集 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)         ウ: ディスカッション、ディベート       エ: グルレフワーク         オ: ブレゼンテーション       カ: 実習、フィールドワーク         キ: その他 (A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)         卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この課題は、全学共通科目の教験科目として、上記の主題と概要、別連目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。(2) 知識を知識に振動することができる。(3 世紀 大きないできる)、「他の主題と概要、別・記録を表現した。(3 世紀 大きないできる)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題と表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主題を表現した。(4 世紀 大きな)、「他の主意な)
毎回の講義で書いてもらう感想交の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。  「学師の基準  「評価の基準  「評価の基準  「評価の基準は、現下無点(各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。  「評価の基準は、第1回の講義の時にクラバスの用版を配付し、評価を伝える。  「学師本を伝える。  「学問末レポート(40点)を総合して行う。  「学問本として行う。  「学問本として行う。  「学問本として行う。  「学問本として行う。  「学問本として行う。  「学問本として行う。  「学問本という。  「学問本を配付し、評価を配付し、評価を配付し、  「学問本という。  「学問本を知らしている。  「学の本という。  「学の本というないが、 「ないらいうないが、 「ないらいるないが、 「ないらいるないが、 「ないらいうないが、 「ないらいうないが、 「ないらいうないが、 「ないらいうないが、 「ないらいうないが、 「ないらいうないが、 「ないらいないが、 「ないらいないが、 「ないらいないが、 「ないらいないが、 「ないらいないが、 「ないらいないが、 「ないらいないないが、 「ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	ア: PQL (課題解決型学習) フ: ディスカッション、ディベト エ: グループワーク オ: ブルビジテーション 中: その他(A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)   本: その他(A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)  本: 英語定 - 学位授与の方針と当該授業料目の問題  この理解は、全学共添計目の教授計目として、上記の主題と相思、別途目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。 (1) 200 年間のののの報告を発記が、通知に手持を用いて収集・調査・程度をして、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。 (1) 200 年間ののの報告を発記が、通知に手持を用いて収集・調査・理解としてもことができる(構成形力) ・ 現場を事業の立めた場合では、関係となり、現場を定義に関することができる(構成形力) ・ 現場を事業の立かに場合では、通知とその要別を基別し、規定の解決に向けた国際的時間りを明らかにした上で、具体化することができる(構成力)  双方向授業の実施及びにTの活用に関する記述  この講剤は、板書・プリントを用いた講教の形式で進める。  実務経験の有無及び活用  実務経験の有無及び活用  実務経験の有無及び活用  実務経験の有無及び活用
<ul> <li>毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。</li> <li>評価の基準</li> <li>評価の基準</li> <li>評価は、平常点(各回の問想文などを記したい紹分の小レポート、60点)、 学期末レポート(40点)を総合して行う。</li> <li>評価の基本は、第1回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。</li> <li>1. 意味の必要をは、第1回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。</li> <li>1. 意味の必要を収ることなどをは、日気管を指して記し、およれに表して、日気では、一般に関する所観に事じる意味を表しまして、クイールドウェクしてほしいと思う。</li> <li>2. 不適として各自が関心とからでよれまと思う場所はメモをとること。</li> <li>3. 議員場所は「最初に関する所できるようになった時に、ライールドウェクしてほしいと思う。</li> <li>4. 講演中に私話をして、他の交媾をの対けにならないように注意すること。</li> <li>数件書</li> <li>使用しない.</li> </ul>	ア: PQL (課題解決型学習) フ: ディスカッション、ディベト エ: グループワーク オ: ブルビジテーション 中: その他(A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)   本: その他(A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)  本: 英語定 - 学位授与の方針と当該授業料目の問題  この理解は、全学共添計目の教授計目として、上記の主題と相思、別途目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。 (1) 200 年間のののの報告を発記が、通知に手持を用いて収集・調査・程度をして、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。 (1) 200 年間ののの報告を発記が、通知に手持を用いて収集・調査・理解としてもことができる(構成形力) ・ 現場を事業の立めた場合では、関係となり、現場を定義に関することができる(構成形力) ・ 現場を事業の立かに場合では、通知とその要別を基別し、規定の解決に向けた国際的時間りを明らかにした上で、具体化することができる(構成力)  双方向授業の実施及びにTの活用に関する記述  この講剤は、板書・プリントを用いた講教の形式で進める。  実務経験の有無及び活用  実務経験の有無及び活用  実務経験の有無及び活用  実務経験の有無及び活用
日本の	ア:四人(課題解決担守期)  7:元人カッション、ディベート  第:ブループワーク  7:ブルンアーション  中:その他(AL型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)   李麗誠定・学位授与の方針と当該授業科目の関連  この項目は、全学共満年日の発酵料目として、上部の主要と概念、別途目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。  「課題を表し、経験を対して、と思いませら程念、別途目標の修得を通じて、本学のディブロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。  「課題を表し、経験を対して、と思いませらな。」  「課題を表し、企会な信仰を考えな、動切に手段を用いて収集・調念、程度することができる(構成の集分)  ・ さまざまな条件・制的を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた遺色や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)   文方向授業の実施及びICTの活用に関する記述  この講教は、板書・ブリントを用いた講教の形式で造める。  「政務経験の有無及びご話用  東新経験の有無及び活用  東新経験の有無及びご話用  東新経験の有無及びご話用  東新経験のの、議費利用者は日本民命字(生活文化史)に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。